



今年話題の感染症と その予防

回答者

樋口 尚子・ひぐちなおこ

子どもの予防接種 平成 19 年産業医科大学医学部卒業。北九州市立医療センターで初期研修後、平成 21 年産業医科大学小児科入局。産業医科大学病院の他、済生会八幡病院、北九州総合病院、九州労災病院を経て、令和 3 年 4 月よりくらて病院に勤務。日本小児科学専門医。

いわゆるコロナ禍も終わり、最近は新型コロナと診断されても、以前のように動揺しない人も多い印象があります。それは、私たちにとって新型コロナが“未知の感染症”ではなくなったためと考えられます。

一方で、コロナ禍ほど生活への制限はないとはいえ、今年もあまり馴染みのない感染症が流行していることも事実です。そこで、2025 年に福岡県で他の年と比べると例外的に流行し、話題となった感染症である麻疹、百日咳、リンゴ病について、その症状や予防法をまとめました。“未知の感染症”にせず、正しく予防しましょう。

麻疹（はしか）とは？

発熱とともに目の充血、涙や目やに、咳、鼻汁などの症状が見られます。熱がいったん下がりかけ、再び高熱が出てきた時に赤い発疹が生じるのが典型的な経過です。

とにかく感染力が強く、空気感染することで知られ、集団の場で 1 人の発症があった場合、速やかに同じ空間にいたほかの人に対して、予防接種を受けているかを確認します。肺炎や脳炎などの合併症もめずらしくない疾患ですが、**予防接種で 95～99% の予防が可能です。**

百日咳とは？

名前の通り、激しい咳をともなう病気です。コンコンと咳込んだ後、ヒューという音を立てて息を吸う咳が特徴で、咳は長く続きます。抗菌薬開始後 5 日程で感染力は弱くなりますが、症状が回復するには数週間から数か月かかることもあります。生後 3 か月未満の乳児では呼吸ができなくなる発作（無呼吸発作）など重症化することもあります。**予防接種により、罹患リスクを 80～85% 程度減らすことができると報告されていますが、免疫の効果は 10 年程度と言われており、定期接種をしっかりと受けることが大切です。**



伝染性紅斑（リンゴ病）とは？

かぜのような症状が出た後に顔面、頬部や四肢に少しもり上がった紅斑（赤い発疹）がみられる疾患です。発疹を見てはじめて診断がつくことが多い疾患ですが、発疹がみられる頃になると感染力はほとんど消失していると言われています。妊婦（特に 28 週未満）が初めて感染すると、流産、死産にいたる場合があります。**有効な治療薬やワクチンはなく、対症療法が行われます。**



このように、麻疹、百日咳、リンゴ病のうち、**麻疹、百日咳は予防接種での予防が可能です。**この機会に、自身や子どものワクチン接種状況を確認されてみてはいかがでしょうか。意外と接種漏れがあるかもしれません。

くらて病院小児科は、毎年 3 月上旬に厚生労働省等主催の「子ども予防接種週間」に参加しています。これは、**通常の診療時間以降の予防接種実施や、予防接種の個別相談**にもお応えするものです。接種やワクチン相談を検討している人は、まずはご連絡ください。